

第61回“社会を明るくする運動” 富山県シンポジウムin射水 開催

射水 更生 保護

発行・編集

射水 保護 司会
会長 米澤 治夫

TEL 0766-52-4321

〒934-8555

射水市本町2丁目10番30号
射水市福祉保健部 社会福祉課内



写真：右上 ▲知事メッセージ伝達・小林県厚生部次長
中 ▲会場風景・夏野射水市長 あいさつ
左下 ▲富山保護観察所富山所長 あいさつ

「住みやすい地域社会づくりをめざして」
アイザック小杉文化ホール ラポールに六五〇余名！

第六十一回「社会を明るくする運動」富山県シンポジウムin射水は、「住みやすい地域社会づくりをめざして」を開催テーマとして、七月十日(日)アイザック小杉文化ホール ラポールを会場に開催されました。

梅雨明けしたばかりの当日は、石井富山県知事代理小林明夫富山県厚生部次長をはじめ「社会を明るくする運動」射水市推進委員長夏野元志射水市長、富山孝明富山保護観察所長、梶谷幸三射水市議会議長や多くの来賓、六五〇余名の来場者で会場は、熱気につつまれました。

開会前のアトラクションでは「小杉童謡の会」の皆さんに出演をお願いしました。

十二時五十分、織田富子さんの司会により開会が告げられ、開会のあいさつでは富山県知事代理小林明夫県厚生部次長より石井隆一富山県知事のメッセージが読み上げられました。次いで夏野元志射水市長、富山孝明富山保護観察所長のあいさつ、梶谷幸三射水市議会議長の歓迎の言葉があり、いよいよ「住みやすい地域社会づくりをめざして」をテーマにシンポジウムが開会されました。

コーディネーター／米澤治夫・射水保護司会会長、パネリスト／射水警察署生活安全課課長・岩瀬由明、射水市地域振興会連絡協議会会長・島田重太郎、青少年育成射水市民会議会長・村田郁雄、射水市PTA連絡協議会会長・鮎田大起、射水保護司会理事・檜物和広の皆さんにより、それぞれの立場か

ら現状の報告や、問題提起とともに解決への模索など真に熱のこもった意見交換に会場の皆さんも思わず引き込まれ、熱気溢れるものとなりました。

最後に、檜物保護司が、「地域社会の連帯感、教育機能の回復をはじめ家族のきずなの強化とともに、一度過ちを犯した人でも「人として生かされて行く」等の実現をめざし努力する趣旨の宣言文を読み上げ、シンポジウムを終了しました。

記念講演は下村加茂神社、野上克裕宮司による「下村加茂神社の年中行事」と題し、長い歴史を誇る加茂神社の一十年間の主な行事紹介とともに、氏子との結び付きについての内容で、その根底に今回のシンポジウムのテーマ「住みやすい地域社会づくり：」と共通した「こころ」を感じました。

米澤射水保護司会長の挨拶があり、成功裡の中に「富山県シンポジウムin射水」は滞り無く終了しました。

特集
「富山県シンポジウムin射水」

『住みやすい地域社会づくりをめざして』を開催テーマとして、七月十日開催の富山県シンポジウムin射水を控え、射水保護司会では、一昨年十二月より準備委員会を立上げ、十二月まで八回に及ぶ準備委員会のほか、富山保護観察所と連絡調整の打ち合わせを開き計画を進めるとともに、今年一月からは、準備委員会を実行委員会として、いよいよ日程に沿った具体案、担当の割り当て、関係機関間との連絡調整等の計画を実行するなど、仕事を進めてきました。射水は平成九年の富山県シンポジウムにおいて六五〇名の参加があり、今回のシンポジウムへの意気込みは大変大きなものがありました。準備は二十一年末の第一回準備委員会から始められました。今号では、特集としてシンポジウムへの道のりをグラフィ的に構成しました。

シンポジウム開催まで…

開催が再来年に迫った平成二十一年十二月末、シンポジウムへの準備が開始されました。

○準備委員会

第一回 平成二十一年十二月二十日



第八回 平成二十二年十二月七日

準備委員会は八回に亘り、この間には日時及び会場の確認、シンポジウムのテーマ「住みやすい地域社会づくり」を決定しました。またそれに伴う主旨の文案等について協議がなされ、決定事項に従い広報資料（チラシ、パンフレット）の試作がなされ、委員の提案で、表紙には平成二十四年完成予定の新湊大橋、海王丸を使用し、射水市らしさを強調しました。



また、今年に入り射水保護司会、会長、副会長、総務部会長、各部長、副部長、監事による実行委員会を組織し本格的に準備を進めました。

第一回・二月二十二日、第二回・五月七日、第三回・六月二十一日と三回の実行委員会によって万全の対応を図る事としました。

富山保護観察所との打ち合わせは二十二年度末に一回、更に二十三年四月

には新任所長への挨拶等を兼ね細部の打ち合わせを行いました。

予算、パネラー、コーディネーター式典セレモニー関係、受付、来賓、記念講演講師、総合司会、報道関係、大会の記録、等についても多岐、且つ細部に亘り検討を重ねて来ました。

関係機関への挨拶、案内状の発送等あらゆる機会を利用し参加を呼びかけ、最大限努力をして来ました。

○協賛団体等シンポジウム

動員依頼のため町廻り

平成二十三年 五月六日

五月三十一日

シンポジウムまで、約二カ月と迫り、種々会合の合同を利用し、参加依頼等直接依頼すべく、市内関係団体事務所等を訪問し、参加への協力を依頼しました。



◀ JR小杉駅前の広告塔

更にシンポジウムまで秒読み段階に入った六月二十八日、保護司全体打ち合わせ会を持ち、予てからの申し合わせ一人一役に基づき、各係に分かれ、仕事の内容について、綿密な打ち合わせを行いました。(下写真)

いよいよ、前日に迫った 七月九日には、保護司会役員及び更生保護女性

会の皆さんにも協力をお願いし当日配布する資料等の袋詰めを行いました。



全体打ち合わせの様子

シンポジウム当日

平成二十三年七月十日(日)シンポジウム当日となりました。折からの真夏の太陽をもとめせず集合時間の午前九時には保護司の皆さんが駆けつけ準備が始まりました。

午前・準備

会場案内を兼ねた「社会を明るくする運動」の桃太郎旗の組み立て、設置、一方会場では、来賓、講師、の控え室への貼り紙、場内舞台の準備、記録用カメラの設置、更には受付準備のため更女会の皆さんが甲斐甲斐しく動き回り、盛会を予想させる心地よい緊張感に包まれました。



▲ 桃太郎旗の設置



▲ 会場の準備に皆で協力し合う

午後・開会前

開会前十二時二十分受付が開始され、今や遅しと待ちかねた参加の人々、来賓が続々と来場し、期待が高まってきました。

十二時四十分にはオープニングセレモニーとして「小杉童謡の会」の皆さんの歌唱も開始され、このシンポジウムに華を添えて頂きました。



▶ 参加者や来賓の方々が来場し、期待が高まる

午後一時司会の織田富子さんが開会を告げるとざわめいていた会場は静けさにつつまれました。

開会の挨拶では、始めに石井隆一富山県知事に代わって富山県厚生部小林明夫次長が知事メッセージを読み上げ、次いで第六十一回「社会を明るくする運動」射水市推進委員長夏野元志市長、富山保護観察所富山孝明所長が挨拶を述べ、さらに射水市議会梶谷幸三議長が挨拶し来場者に歓迎の意を表しました。



▶ 開会式の様子

シンポジウムでは、「住みやすい地域社会づくりをめざして」をテーマと設定し、左記の皆さんによって、パネリストディスカッションを繰り広げました。

コーディネーター

射水保護司会 会長 米澤 治夫

パネラー

射水警察署生活安全課 課長 岩瀬 由明

射水地域振興会連絡協議会 会長 島田重太郎

青少年育成射水市民会議 会長 村田 郁雄

射水市PTA連絡協議会 会長 鮎田 大起

射水保護司会 理事 檜物 和広



村田 郁雄



島田重太郎



岩瀬 由明



檜物 和広



米澤 治夫



鮎田 大起



加害者と被害者が同じ地域に居たら... 更生保護の立場から。私達ほどの様に助け合っていけばいいの？

警察の立場から今の射水の事件の概況、地域振興会の立場から犯罪予防と地域活動の連動の現状、青少年育成会議の立場から社会教育面から見た少年問題の現状、PTA連絡協議会の立場からいじめ、不登校、引きこもり、万引き、携帯、ネット等様々な問題について、保護司、BBSの立場から少年と家庭のつながり等パネラーから述べられ、また現状に対する対策や工夫、他県の事例についても参考とし述べられるなど、熱意あふれる話合いに思わず引きこまれました。

これまでの話合い、打ち合わせも含め結論として、最後に宣言文として、檜物保護司が読み上げこのシンポジウムは終了しました。

記念講演では、「下村加茂神社の年中行事」と題して野上克裕宮司にお願いしました。

下村加茂神社は、射水市(旧下村)にある神社で、加茂御祖神社すなわち京都市左京区にある下加茂神社、越中国倉垣庄の総社でその歴史は古く、年中行事が五十回近くに及ぶ祭事のうち代表的なもの

- 一月一日 鯰分け神事・(市指定無形民俗文化財)
- 五月四日 やんさんまつり・(県指定無形民俗文化財)
- 六月上旬卯日 御田植祭・(県指定無形民俗文化財)
- 九月四日 稚児舞・(国指定重要無形民俗文化財)

について季節を追って、映像とともに、解説されました。

講演後、会場からの大きな拍手に、加茂神社の歴史とともにこの祭事の伝統を守っている宮司、氏子の一体感への賛辞が込められている事を感じました。



最後に米澤治夫射水保護司会長が閉会の辞を述べると共に、来場者六五〇名を数えた事を報告し、このシンポジウムは成功裡に終了致しました。

射水保護司会 平成二十三年定期総会開催

平成二十三年度射水保護司会の定期総会は、去る四月二十二日(金)午後二時より射水市小杉社会福祉会館に於いて開催されました。

当日は、来賓として市長代理松岡信昌射水市福祉保健部長、梶谷幸三射水市議会議長、島木康太射水市社会福祉課長、當山孝明富山保護観察所長、瀧下光夫富山保護観察所主任官、神谷英基射水警察署長、宮城澄夫射水市社会福祉協議会会長、野上克裕射水市教育委員教育次長、岩口和義射水市更生保護協力会副会長、山本修射水地区更生保護女性会会長、飯田聡射水市小学校長会長、星野正義射水市中学校長会長、名誉保護司等多数臨席のもと開催されました。



▲ 米澤会長 あいさつ



▲ 新中会長 あいさつ

平成二十三年度
射水市更生保護女性会総会開催

開会宣言の後、物故者への黙祷、保護司信条の朗唱と続き、米澤会長あいさつの中では、保護司として犯罪の無い明るい社会を築くのが使命であり、間近に迫った富山県シンポジウムにふれ理解と、協力を訴えました。

富山保護観察所富山孝明所長のあいさつ、来賓の祝辞及び紹介後、議長に川井實保護司を選び議事に入り過年度事業報告及び決算報告、さらに役員改選では、炭谷幸子保護司の理事辞任に伴い、新たに檜物和広保護司を理事及び研修部長に選任、炭谷保護司は常任理事とし今後も協力願う事として承認されました。さらに二十三年度事業計画及び予算案を承認し総会は滞りなく無事終了しました。

四月二十八日(木)午後一時三十分より射水市新湊交流会館に於いて平成二十三年度射水市更生保護女性会総会が開催されました。開会の言葉、次いで会員綱領唱和と続き、開会の挨拶の中で、新中孝子会長は更生保護が地域の活動であり、ボランティア活動として無報酬の鉄則に従い、目立たず、つましやかに、その活動にルールは無く見返りを求めず対話を大切に地域のお手伝いさんとしての活動推進のために皆さんの協力をお願いしたいと述べました。

平成二十三年度
射水市更生保護協力会定期総会開催

来賓祝辞及び紹介があり、議長選出、議事、と総会は滞りなく終了し平成二十三年度がスタートしました。

総会終了後、夏野元志市長が出前講座として「みえる・わかる・わかり合えるミートイニング」と題して東日本大震災への支援状況をはじめとする市の取り組みについての講演で、市政への理解を深める良い機会となりました。

総会は、東日本大震災で亡くなられた方や本会関係物故者への黙祷、会長である夏野射水市長による開会のことば、来賓紹介と続き、議長に夏野会長

(市長)を選出し議事に入った。

- ①平成二十二年事業報告並び一般会計及び特別会計決算報告
- ②監査報告
- ③役員 の改選
- ④平成二十三年度事業計画(案)並び一般会計及び特別会計収支予算(案)について審議、議事は滞りなく終了しました。

その後、アトラクションとして、射水市出身で、富山市本郷西で「めん処月見」の経営者沢田保さんのマジックショーで会場は驚きの歓声でに大いに湧きました。

※射水市更生保護協力は、射水保護区内で非行や、罪を犯した人の改善及び更生を助け、犯罪予防の活動を助長し、個人及び公共の福祉に寄与するため、この趣旨に賛同する団体、(企業)会員と個人会員で組織され、社明運動



▲ 澤田さんのマジックショー



▲ 夏野会長 あいさつ

七月の「社会を明るくする運動」の強調期間を前に、さる六月三十日(木)、射水市中央図書館を会場に、第六十一回「社会を明るくする運動」射水市推進委員会が開催されました。

射水市推進委員長・夏野射水市長、中村富山保護観察所企画調整課長、主唱者・米澤射水保護司会長の挨拶があり、海内事務局長より、第六十回(平成二十二年)「社会を明るくする運動」実施結果報告、第六十一回「社会を明るくする運動」行事実施計画案等について審議し、承認されました。



▲ 夏野委員長 あいさつ

第六十一回「社会を明るくする運動」
射水市推進委員会開催

(中学生生活体験発表大会・作品コンテスト表彰協賛金)をはじめ、更生保護大会等助成・富山県シンポジウムin射水大会への助成等々、多く支援を行っています。

法務大臣・知事メッセージ伝達

第六十一回「社会を明るくする運動」強調月間の始まりを告げる七月一日(金)十三時三十分より小杉庁舎・市長室に於いて夏野市長への第六十一回「社会を明るくする運動」法務大臣及び知事メッセージの伝達が行われました。

五十嵐、梅崎、副会長海内事務局長、高松事務局次長が立ち会い、厳粛な雰囲気の中に米澤射水保護司会長がメッセージを読み上げました。

また、同日十四時三十分より新湊庁舎・市議会議長室に於いて、梶谷市議会議長に代わって竹内副議長へも同様メッセージ伝達が行われました。

◀ 市長・市議会議長へメッセージ伝達



第六十一回「社会を明るくする運動」
「やり直せる社会に、賛成です。」
海王丸パークで街頭宣伝活動展開



▲みんな揃って恒例の記念撮影

「社会を明るくする運動」の強調月間中の七月十八日(月)海の日、総帆展帆等様々な行事があり、多くの人で賑わう中、海王丸パークを会場に、犯罪や非行のない明るい社会と、不幸して罪を犯した人でも「やり直せる社会に、賛成です。」をスローガンに黄色い羽根を配布し、再犯の繰り返しを変えるのはあなたのみならずです。と訴え啓蒙活動を繰り広げました。

当日は、射水市福祉保健部より島課長はじめ二名、瀧下富山保護観察所射水担当主任官も駆けつけ、保護司四十一名、更生保護女性会員十三名の他児童も加わり、はじめに一同で記念撮影の後、作業として、予め用意してあった「黄色い羽根」とパンフレットをセットにしてそれぞれ思い思いの場所でこれらを配布し街頭宣伝を展開しました。約一時間余りの、活動後、近くの「きっとときと市場」に移動して昼食、その後解散しました。



▲「黄色い羽根」とパンフレットのセットを配布し街頭宣伝



▲ 米澤会長のあいさつ

第三十回 射水市中学生生活体験発表大会開催 石黒佳穂さん(小杉中)県大会へ

五月二十六日(木)今年で三十回目を迎える射水市中学生生活体験発表大会が射水市立射北中学校体育館を会場に開催されました。
当日は同校生徒会の司会により進められ、米澤治夫射水保護司会会長の開会のことば、星野正義射水市中学校校長会会長の激励のことば、発表上の注意のあと、抽選により決められた順に従い市内七校の代表が持ち時間五分間の間にそれぞれの体験の中で学び感じた事を発表しました。

野上克裕射水市教育委員会教育次長、新中孝子射水市更生保護女性会長、他三人の保護司が審査にあたり厳正な審査が行われ、二十分の休憩の後、野上

教育次長の講評、引き続き、審査結果の発表が行われ、「涙」と題して発表した小杉中学校(三年)の石黒佳穂さんが県大会へ市代表として選ばれました。

石黒さんは、「生徒会活動がうまくいかず流した悔し涙、合唱部で流した嬉しくも感動の涙、二つの涙で学んだ事、どちらも自分を強くしてくれるし、自分を支えてくれた家族、友達があり、

決して一人ではありません。」と説得力ある発表で会場の共感を呼びました。

県大会はボルファーととやまを会場に七月十七日(日)

午後一時より開催され、射水市代表の石黒さんは前半、後半十七名中前半二番目に発表しました。市の大会に勝る発表で見事「富山テレビ放送社長賞」受賞の荣誉に輝きました。

◆発表者及び演題(発表順)

学校名	学年	発表者氏名	題名
大門	2年	赤尾 英里子	伝えよう 温かい心
小杉南	2年	佐野 莉々桂	「学ぶ」権利とは？
小杉	3年	石黒 佳穂	涙
射北	3年	岩黒 羽純	今、一番伝えたいこと
新湊南部	3年	前田 祐里	父が教えてくれたこと
新湊西部	3年	久湊 由佳	力を尽くして生きる
奈古	3年	真木 香穂	心遣いと思いやり



▶ 発表中の石黒さん



▶ 当日発表のみなさん



◀ 県大会での受賞式の様子



過日、七月七日、富山県民生委員大会が開催されました。この大会の記念講演で、元衆議院議員の山本謙司氏が「堀の中の現実に見る 日本の福祉」と題して興味深い話をされました。

更生保護を仕事とする保護司にも関係がありそうな部分を記して参考に供したいと思えます。

再犯を防ぐため、協力雇用主会などの設立等が成されてきましたが、矯正施設内には障害者、高齢者、発達障害の受刑者がとても多いのようです。

そんな人達が出所後、社会復帰する時、何が求められているのか？

更生保護に求められる福祉的視点。
・この様な受刑者の社会復帰に向けた更生を考え、法務省矯正局と保護局の連携、更には厚生労働省や文部科学省との連携強化。
・地域生活定着支援センターの整備(刑事施設、少年院及び保護観察所と地方公共団体、公共の衛生福祉に関する機関との連携確保。)

・矯正・更生保護分野における福祉専門職の活用。等々ありますが、射水市では、県下に先駆け「射水地区更生保護協力雇用主会」を立上げ、出所者の更生保護に協力をお願いしていますが、今年前記のような対象者にも対応出来る企業の参加も実現したようです。

実現したようです。

◇ 事務局日誌 ◇

平成22年度

- 2月22日 第2回理事会
- 第1回シンポジウムin射水実行委員会
- 3月1日 海王丸パーク標語掲示三角塔更新申請(5ヶ年)
- 17日 保護司代表者会議(米澤、五十嵐)
- 22日 第3回理事会(年度総括協議)
- 29日 監事監査

平成23年度 前期

- 4月19日 第1回理事会 総会事項
- 22日 平成23年度定期総会
- 28日 富山保護観察所定期駐在
- 5月11日 第61回富山県社明運動推進委員会
- 17日 第1期地域別定期研修会
- 23日 シンポジウム実行委員会
- 24日 パネラーとの打ち合わせ
- 26日 保護司代表者協議会
- 26日 第30回射水市中学生生活体験発表大会
- 6月3日 地域活動部会協議会(二宅)
- 15日 シンポジウム実行委員会
- 21日 パネラーとの打ち合わせ
- 21日 第2回理事会
- 26日 6・26ヤング街頭キャンペーン
- 28日 シンポジウム実行委員会・全体委員会
- 7月1日 射水市更生保護協力理事会
- 30日 第61回社明運動射水市推進委員会
- 10日 法務大臣・県知事メッセージ伝達
- 6日 射水市更生保護協定会定期総会
- 17日 第61回社明運動富山県シンポジウム
- 17日 第49回富山県中学生生活体験発表大会

- 18日 第61回社明運動街頭宣伝活動
- 26日 富山保護観察所定期駐在
- 8月6日 薬物乱用防止フォーラム
- 30日 第1期地域別自主研修会

● 6・26ヤング街頭キャンペーン
— アルブラザ小杉で展開 —

六月二十六日(日) 平和堂アルブラザ小杉周辺を会場に例年の通り「六・二六ヤング街頭キャンペーン」が繰り広げられました。薬物の乱用防止を訴えるもので、ボイスカウト、薬剤師会、少年補導員等関係の組織の皆さんと共に射水保



薬物の乱用は、あなたとあなたの周りの社会をダメにします!

富山県警察 富山県立総合教育センター

護司会からは、炭谷、高松、池内保護司が参加し、啓発のパンフレット、ティッシュの配布など約一時間に亘り、「ダメ。ゼッタイ。」を訴えました。

● 部会だより

○ 総務部会

シンポジウム実行委員会、事務局日誌の内容に重複致しますので今号は割愛させていただきます。

○ 研修部会

五月十七日 第一期地域別定期研修会
「面接について」
八月二十日 第一期地域別自主研修会

○ 広報部会

シンポジウムの関係で11号の発行が遅れてしまいました。12号は来年二月を目標にしています。

○ 協力組織部会

六月二十四日(金) 午後五時三〇分より協力組織部会及び総会、射水地区更生保護協力雇用主会と懇親会も併せて開催を致しました。大変厳しい環境状況の中ではありますが、雇用主発掘の促進、市内の企業、事業主への活動PR、参加協力の要請のための訪問等の活動を進めて行く事等話し合いました。

○ 地域活動部会

海王丸パークでの六十一回「社会を明るくする運動」街宣活動では、暑い中での活動お疲れ様でした。

○ 学校部会

作品コンテスト日程
募集
作文、標語、ポスター(図画)
八月一日までに射水市推進委員会に送付するものとする
審査
・ 八月二日 作文
・ 八月四日 標語、ポスター
・ 十月に発表会と表彰式を行う。



編集後記

「富山県シンポジウムin射水」が成功裡のうちに終わりました。射水保護司会として最大の行事として取り組んできただけに、「終った」との実感とともにこのシンポジウムを機に保護司会の連帯感を密にする効果もあつたのではないかと思います。今号では今回のシンポジウムをレポートとして特集いたしました。編集に手間取り発刊が遅れ申し訳ありません。(寺腰 記)